

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400027		
法人名	社会福祉法人 真和会		
事業所名	グループホームあしたば		
所在地	長崎県雲仙市瑞穂町伊福甲675・669番地		
自己評価作成日	令和 2年11月20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、安心して生活していただけるように努めています。又、少人数での生活ですので、職員のかかわりも密に取れ、日々の健康状態などにも細かく目配りが出来ていると思っています。食事に関しても、専門の調理員を配置し、季節の野菜を取り入れた食事を提供しています。又、同敷地内に関連の施設がありますので、緊急時の対応等の協力体制がある事により安心していただけると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームリビングの窓からは温かな光が入り、雲仙・多良岳や季節の野菜が栽培されている田畑を眺めることができるなど入居者の楽しみとなっている。今年度はコロナ禍に伴い新たに一人掛けソファやテーブルを購入するなど、ソーシャルディスタンスを考慮し入居者の感染予防に努めている。職員は入居者が地域の中でこれまでの暮らしを継続できるよう思いを尊重した支援に努めており、ホーム理念が浸透していることが窺える。また、管理者は職員の良き理解者となって職員が働きやすい環境づくりに努めており、職員間のチームワークも良く、互いに相談しやすく注意し合える関係性にある。敷地内にある同法人運営の関連施設とは有事の際の協力体制を築いており、入居者の体調不良時など昼夜ともに常駐する看護師の協力が得られ、入居者・家族の安心に繋がっている。ホームでは職員が主体となり毎月研修会を開催するなど、職員の学ぼうとする姿勢が見受けられる。入居者を大切に思い、家庭的で温かなホームであることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 あしたば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼後理念である「地域の中で普通に暮らし当たり前に自分らしく生きていく」を全員で唱和し共有している	朝礼時の理念唱和や、新入職者には管理者・介護主任から説明するなどし、理念の周知を図っている。職員は入居者との会話の中からは行いたいことなどを抽出し、思いを尊重した支援を行うことで理念の実践に繋げている。また、地域行事への参加や顔馴染みの方と交流する機会を増やすことで、入居者が地域の中で暮らしを継続できるように支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや運動会、文化祭などに参加して交流を図っているが、今年はコロナの感染拡大により行事自体が中止となり参加交流が出来なかった	自治体主催の祭りではホームから神社に御神酒を供えたり、神輿がホームへ訪れるなど入居者の楽しみとなっている。また、市の文化祭に入居者全員で参加し、入居者と一緒に制作した作品が金賞を受賞するなど、入居者の喜びに繋がっている。更に、地域の方から野菜の差し入れがあるなど日常的な交流が窺える。ホームの実情については民生委員を通じて地域へ知らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の職場体験、ボランティアの受け入れ等で理解を深めてもらっていたが、今年はコロナの関係で実施出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の開催で委員の皆様にご利用状況や行事、ヒヤリハット、事故報告などの報告を行っている今年度はコロナの関係で3月と5月は資料を配布し、ご意見を頂いた	運営推進会議には行政・家族・民生委員・知見者の参加があり、ホームの実情やヒヤリハット・事故報告など活発な意見交換の場となっている。家族からのヒヤリハット事例への問いに対し、詳細な説明を行ったことで家族の安心に繋がった。また、昨年度運営推進会議委員が避難訓練を見学した際、民生委員から挙げた助言に対してホームで取り組むなどサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から電話での質問をしたり積極的に協力関係の構築に努めている	入居者に関する各種手続きや介護保険の更新等で行政窓口を訪れた際、市担当者へホームの実情を伝えている。運営に関する不明な点などは島原地域広域市町村圏組合に電話で問い合わせ、意見を得ている。また、市地域振興課より地域行事のお知らせがあるなど、日頃から行政及び関係各所と関わりを持ち、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会や勉強会を通して身体拘束廃止への取り組みを行っている。	法人内身体拘束虐待防止委員会にホーム職員も参加し、委員会内容は申し送りノートで共有を図っている。事例報告会や身体拘束をしないための対策などを学ぶことで職員は日々の振り返りの機会とし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒リスクのある方について、家族への説明・同意を得た上で夜間のみ足元センサーコールを使用する方がいるが、解除に向けてその都度見直しを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止同様に委員会や勉強会を通して虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修等に参加し必要性があれば活用し支援できるようにしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や契約終了時は丁寧に説明を行い納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情要望の受付担当や、解決責任者を配置している 又第三者委員も配置し、年1回は報告会を行っている	職員は面会時や電話連絡をした際に入居者の日頃の様子を家族に伝え、意見や要望を言いやすいよう努めている。家族とのやり取りは介護日誌に記録し、決定したことは申し送りノートや苦情・要望受付管理簿にて共有を図っている。入居者より給が食べたいと希望があった際には、誤嚥や疾患の観点から一日の摂取個数を決め、職員の見守りのもと食してもらうなど、本人・家族の希望に沿えるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の会議やミーティングを開催し意見を出し合い改善が必要であれば対応するようにしている	管理者は日頃より職員とのコミュニケーションを大事にしており、相談や意見が言いやすい関係性を築いている。職員からの提案でリビングのソファの位置やオムツの種類、入居者のリハビリシューズを検討するなど、職員意見を運営に反映している。毎月開催しているホーム内研修は職員が月交代で担当しており、職員の学ぼうとする姿勢が窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回のキャリアシートを使用しての人事考課を実施し、一人ひとりフィードバックの面接を行い意見や要望を言えるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在コロナ禍においては、外部研修への参加が難しい。月に1回は内部研修を行っている。今後はリモートでの研修参加も検討中		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会を通じての勉強会や研修に参加していたが、現在は外部との交流は控えている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暮らしの情報やアセスメントシートを活用し、コミュニケーションを取りながら本人の要望や不安等を把握するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の中で必要としている支援を見極め法人内の他施設との連携を含め対応できるように説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接の中で必要としている支援を見極め法人内の他施設との連携を含め対応できるように説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の性格や生活歴を把握し人格を尊重し理念の家庭的な雰囲気の中で信頼感が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡をこまめに行い日頃の様子を伝え信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響で地域の行事への参加や顔なじみの方との交流ができていないが、近くの公園・コスモス見物・紅葉見学に行くなどの外出支援を行って入居者の馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援に取り組んでいる。	コロナ禍以前は家族や友人・近所の方の面会があり、お茶を出したり居室やリビングなど好まれる場所でゆっくり過ごせるよう空間づくりに配慮していた。現在はLINE電話での面会や入居者所有の携帯電話を操作し支援することで、家族や馴染みの方との関係継続の支援に努めている。入居者が家族行事である法事や葬式などに出席する際は、車椅子の貸し出しやその場所まで送迎支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら孤立させないような援助を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで契約が終了しても継続的な関わりや支援ができるよう母体施設と連携して努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に心身の情報収集やアセスメントを行い暮らしの情報を活用し本人の希望や意向の把握に努めている。	入居時に「心のノート」と「暮らしのノート」を作成し、前者には入居者本人・家族の意向や希望、後者には趣味・食事・排泄状況などを記入することで、本人・家族が望む生活が送れるよう支援している。職員は入居者にいつもと違う表情や動きがあれば話を傾聴し、関わりを持つことで軽微な変化にも気づけるよう努めている。園芸が趣味の方には自宅で育てていた蘭を持参してもらい、ホームで継続して栽培できるよう支援した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族より情報を聞き生活歴や環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に本人や家族から一日の過ごし方、心身の情報アセスメントシートを活用し状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時には本人や家族の意向・要望等を尋ね主治医からの意見書を参考にしながら職員全員で話し合い介護計画を作成している。	ケアプランを作成する際、面会時や電話で確認した家族の意向をプラン内容に反映しており、毎月全職員で行うケアカンファレンスには家族にも参加を呼び掛けている。職員は日々の記録の際にサービス内容を確認し、ケアプランに沿った記録ができるよう取り組んでいる。毎月プランに対する評価、3か月毎に見直しを行うことで現状に即したプラン内容となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってケアの統一を図り個別記録に記入し気付いた事は職員間で共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々を話し合いの中で柔軟な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや運動会、文化祭などに参加して交流を図っているが、今年はコロナの感染拡大により行事自体が中止となり参加交流が出来なかった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他に入所前のかかりつけ医の継続受診は出来ていて、月1回の受診はできている。	ホームでは入居者本人・家族の希望を把握し、入居前のかかりつけ医や眼科・歯科を受診できるよう支援している。昼夜ともに敷地内の同法人施設に常駐する看護師の協力が得られ、体調不良時の早期対応に繋げている。また、かかりつけ医にも相談しやすい関係性を築いており、適切な医療を受けられるよう支援している。受診後の留意点は職員連絡ノートにて共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置がないので、緊急時は母体施設の看護師に対応してもらったり、主治医への連絡を行い指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時医療連携室と情報を共有し家族や主治医と相談しながら関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しグループホームでの対応が困難になった場合は職員間で話し合い共有しながら主治医や家族と相談しながら支援を行うように努めている。	ホームでは入居前だけでなく、入居者が重度化した場合もホームで対応し得る最大のケアや看取りに関するホームの意向について家族へ説明し、同意を得ている。重度化に伴い医療行為が必要となり、ホームでの対応が困難となった場合は同法人施設を紹介するなど家族の安心に繋げている。職員は雲仙市主催の研修会「身体介護の技術」に参加し、学びの機会とした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を内部・外部の研修会に参加して実践力を見に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	母体施設と定期的な訓練を行っている。昼間・夜間想定での避難訓練また消火器の扱いなどの訓練も行っている。スプリンクラーや緊急通報装置を設置している。	避難訓練は全職員が交代で参加できるよう勤務調整を行い、マニュアルに沿った対応や役割分担の周知に努めている。有事の際には敷地内の同法人施設職員の協力が得られ、早急な避難に繋げている。今年度は雨天時に避難する際の車両配置の検討や、停電に備えた自家発電機の購入など有事の際の入居者の安全確保に努めている。また、備蓄品として生活用品はホーム、食料品は法人内備蓄庫に3日分準備している。	緊急持ち出し品として入居者情報一覧を準備しているが、例えば、入居者の身体状況や歩行補助具の使用が確認できる入居者写真の追加など、避難先でのスムーズな対応に繋がれるよう今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しながら、誇りやプライバシーを損ねない様に言葉かけや対応に気がかけている	職員は声のトーンや言葉遣いに注意し、優しい言葉掛けとなるよう努めており、不適切な言葉掛けがあった際は職員同士で注意し合い、改善を図っている。トイレ誘導時は場所を変えて声掛けを行うなど入居者の羞恥心に配慮している。今年度はホーム内研修として「言葉遣い・身だしなみ・挨拶の仕方」について学び、自己の振り返りの機会とした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思いや希望を伝えられるような雰囲気作りや対応を行いながら、自己決定できるように働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動参加の声掛けは行っているが、強制はせず利用者本人が思い思いに過ごしてもらえるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族や本人が持って来られた衣類を着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に嗜好を伺ってそれぞれに提供している。お盆拭きや後片付け等出来る範囲で手伝ってもらっている	食前の嚥下体操の実施や、入居者一人ひとりの能力に合わせた食事形態・刻み食の提供など、安全に食事が摂取できるよう努めている。また、パンやちらし寿司、刺身など入居者のリクエストにも対応しており、食事が楽しいものとなるよう支援している。更に、入居者同士の席の配置などを配慮することで、会話が弾み楽しい食事時間となるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月献立表を作成し、管理栄養士によるカロリー計算や確認をしてもらっている。又、食事量に応じて補食を提供したりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い実施してもらっている。一人ひとりの能力に応じた介助を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツは使用せずトイレ誘導を行っている。尿意や便意がなくても時間を見ながら誘導を行っている	職員は排泄チェック表で入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間毎の誘導を行うことでオムツを使用せず布パンツで快適に過ごせるよう努めている。夜間は入居者が安眠できるようオムツ・尿取りパットを使用しているが、職員間で話し合い常に見直しを行っている。ポータブルトイレにはカバーを掛けてプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行い主治医とも相談しながら下剤の調整を行っている又、水分補給で牛乳を提供したりして工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応は入浴日を設定しているが、体調や気分に応じて曜日の変更は柔軟に対応している	浴室にはシャワーチェア・シャワーキャリー・手すり・浴槽グリップ・リフト浴があり、重度の方も安全に入浴できるよう支援している。入居者にとって入浴が楽しいものとなるよう、職員は歌や会話など一人ひとりの好みに合わせた支援に努め、季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を準備し喜びに繋げている。入浴拒否がある方には時間をおいて声掛けを行ったり、入浴日を変更するなど柔軟に対応し気持ち良く入浴できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や状況に応じた対応を行い休息したりできるよう支援している。又、それぞれの就寝時間に合わせて対応するようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している内服薬については把握している。服薬させるときは、二人で確認作業を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かして、楽しんで行えるような役割や、活動の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事を計画し外出する機会を設けているが、コロナ禍では地域の行事への参加ができなかった。	ホーム敷地内には桜やつつじなど季節の木々があり、日常的な散歩コースとして入居者の楽しみとなっている。また、新型コロナウイルスへの感染防止策を講じた上で有明のフラワー公園へコスモス見学に出掛けた際には、写真撮影や散歩など思いおもいに過ごすことができている。家族と一緒に花見や、正月・お盆の帰省時には入居者の状態を知らせるとともに、何かあった時はいつでも連絡して良いことを伝え、外出が楽しいものとなるよう支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の管理は家族が行っている。買い物は本人が希望する者を立て替えて買い物できるように家族と相談し支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を掛けたりできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間には季節を感じていただけるような飾り付けを行ったり、観葉植物等で居心地の良い空間になるように工夫している	リビングの窓からは明るい日差しが入り、対面式キッチンでは調理する音や匂いを感じることができると家庭的で温かな雰囲気がある。コロナ禍に伴い新たに一人掛けソファやテーブルを購入するなど、ソーシャルディスタンスを考慮し入居者の感染予防に努めている。リビングでは入居者一人ひとりが好みの場所で過ごしてもらえるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり過ごせるようにソファを設置したりして、自分の好きな場所でゆっくり過ごしてもらえるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や小物は使い慣れたものや、思い出のあるものは要望を聞きながら家族と相談して持って来て使用してもらえるように支援している	居室の掃き出し窓や中窓からは明るい光が入り、ベランダがあることで開放的な空間となっている。入居者馴染みの持ち込み品としてテレビ・タンス・時計・布団・壁飾り・家族写真・神棚があり、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。また、神棚に供える櫛(しきみ)をホームで準備し、水替えは本人が行うなど入居者の気持ちを大事にした支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレなど分かりやすく表示したりしている。又バリアフリーであり安全に移動してもらえるようにしている		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で普通に暮らしあたりまえに自分らしく生きていく」の理念の元、玄関に掲げ、理念の浸透と社員同士の理解を深め就業していく上で朝の朝礼、申し送りの際に職員全員で唱和し利用者様に尊厳あるケアを提供していくため意識づけを取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の「祭り」や運動会、保育園運動会、文化祭への作品出品等行事等へ地域との交流を図る為参加に努めてきたが春先からの、新型コロナの流行で行事自体が自粛されており地域との接触が厳しい状況にあるためモニターでの交流も検討する。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中、高生職場体験学習の受け入れや、ボランティア活動の受け入れ等で認知症の方の理解や支援の方法を体験してもらうよう実施してきたが今季は春先からの新型コロナ流行により外部との接触が出来ない状況にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に(奇数月)運営推進会議を実施し、事業所の状況報告を構成員からの意見や要望等を受けた場合、事業所内で対応できることは早急に対応し法人対応が必要であれば報告し対処の方向へと対応している。新型コロナ対策により5月、7月運営推進会議の開催が中止となる。状況報告を委員の方々へ郵送し報告を行う。9月より新型コロナ対策様式に沿った運営推進会議を開催する事が出来た。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナ感染に注意した様式で、提出物書類等出来る限り郵送ではなく出向いて事業所の状況等を伝えて助言を頂いていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでおり事業所内での研修会を開催し身体拘束の理解を深め意識を高めている。玄関の施錠は夜間においてのみ、防犯の観点から行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされないよう注意し外部、内部研修の中で個々の意識づけを行い、対応困難な問題が発生した場合には、話し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について外部、内部の研修の中で学ぶ機会を持ち、必要性があれば研修を活かし活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、運営規程や重要事項の説明を行い理解と納得をされたうえで家族の同意を頂いている。解約や改定時にも同様に家族へ説明を行い同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、日頃の関わり時から意見や要望を伺い、家族には、面会時や電話連絡で意見や要望を伺っている。収集した内容を、職員間で共有し、運営推進会議でも報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、職員の意見や提案を出し合い、改善が必要な事項に関しては、直ぐに対応している。日常的に何でも言える環境になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を実施し、個々に向上心を持ち高めて行けるよう働きやすい環境作りや、やりがいのあるそれに伴う条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のケアの力量や、努力している所等を通常の業務の中で観察把握し、内部研修に参加出来る様配慮し、必要であると思われる研修及び希望の研修には参加出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会を通じての研修や勉強会には交流を図っていけるように、サービスの質を向上できるように参加している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者から相談があった場合や、不安に思っている事は無いか本人と接し要望等傾聴し、信頼関係が築けるように心がけ務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で、家族が困っている事は無いが、こうして欲しいという要望を出しやすい環境を設定し信頼関係を育ていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の情報を得たうえで、まず必要としている支援を見極め最優先し、他職種との連携を図りながら可能な限り柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がこれまで培ってきたものを尊重し、受け身サイドにならない様支え合う関係を心がけ学び合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のきずなを大切にしていくため、面会時や電話や手紙等で、日頃の様子を伝えており共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響で地域の行事への参加や顔なじみの方の交流が自粛されているが、顔なじみの方との関係や馴染みの場所等関係が途絶えない様新様式での支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察、把握し食席やリビングでお互いに過ごしやすいように関わりをもち、自然体で支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービス利用が終了しても、継続的に関わりが保てるように、連携室との情報交換や、母体施設と連携して努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で関わっていく上で、利用者の思いや意向の把握に努めている。「心のノート」を活用し思いや要望に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より生活歴や、生活環境等の経過等聴取し「暮らしのノート」を活用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用開始時やその後の面会時に、本人や家族から一日の過ごし方や、心身状態の状況や、日常生活の中で出来る事の情報聴取し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用開始時、本人、家族から要望や意向を伺い主治医からの意見も含め職員と共に話し合い現状に即した介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って職員間のケアの統一を図り、実践し記録、評価を行い情報の共有や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況の変化等その時々で、本人や家族と相談しながら柔軟な支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、地域の方や馴染みの方と交流を持ったり、慰問やボランティアなどを楽しみを持っていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他に、入所前のかかりつけ医にも相談し、本人家族と相談し適切な医療が受けられるよう相談し適切な医療が受けられるよう支援している。月に一度は受診するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設に看護師はいないので、母体施設の看護師の協力を受けられるよう情報を伝え、相談している。又、体調の変動時は主治医へ報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、出来るだけ早期に退院できるように、また安心して治療できるようにサマリーを提出し情報を共有し支援している。連携室、家族と相談しながら退院時への相談をしながら関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態により、グループホームでの対応が困難な状態になるような場合は、家族や医療機関と相談しながら本人により良く過ごしていただけるよう今後の方針など相談し、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を、定期的に内部や外部の勉強会に参加し、学び対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	法人内で避難訓練を行い、協力体制を取っている。また、災害についても定期的に勉強会を行っている。スプリンクラー設備や消火器、警報装置など設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応など尊厳を持った関り方を意識し対応している。排泄や入浴時などプライバシーを損ねないように支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりと関わりを増やし、その都度コミュニケーションを取りながら、思いや、希望、要望などいつでも話が出来るように信頼関係を築けるよう努め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室に閉じこもりにならない様、声掛けを行い強要はせず好きな活動へ参加してもらい、自分のペースで取り組みが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみ出来る様、化粧水やクリーム、ブラシ、手鏡等いつでも身だしなみなど整えられるよう届く範囲に設置し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、器等への配慮や嫌いなものは、代替え品を提供している。毎食後の食器洗いやお盆拭き、テーブル拭き等負担にならない程度で職員と共に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士に日々の献立のカロリー計算をしてもらい、栄養が偏らない様支援している。食摂取量は毎食記録し、摂取量が少ない時は、その方の好みに応じて補助食等を提供し摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを自分で出来る方は行ってもらう磨き残しの部分を職員が磨き直し磨き仕上げを行っている。全介助を必要としている方はモアブラシ等使用し、口腔内に残渣は無い確認し口腔内の状態観察を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らせるよう、時間を見ての声掛け、介助で排泄パターンを把握している。その方の排尿量に合ったパットを選択し対応し排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医とも相談しながら便秘の予防を行っている。又、水分、食べ物等にも配慮しながら個々に応じた工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人から入浴に対する希望を聴取し、週3回の入浴を行っている。体調や本人の希望に合わせて柔軟に対応できるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状態に応じて、ゆっくり過ごせるよう柔軟に対応している。夜間も安眠できるように空調や照明等その方に合った調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している内容を把握し、適切な服薬介助を行い、状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの要望を日々の生活の中に取り入れ、その人らしく楽しく暮らしてもらえる様支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行事計画を立て外出したり、施設敷地内の散歩を行い気分転換を図っている。地域での行事や、文化祭への作品出品を行い見学し交流が出来るよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と本人との相談のもと、希望者のみ現金を所持しており、要望に応じて、家族との相談のもと買い物もできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、家族との協力を得て、手紙や電話のやり取りが出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間や移動ルートに障害物となるようなものがない様安全性に配慮し自室内に、馴染みの物を置き家族写真等で居心地の良い空間作りの工夫に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下等でもゆっくり過ごせるようソファ等設置し利用者同士で思い思い過ごせるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の家具や寝具等は、本人や家族と相談し、使い慣れたものや好みの物を設置使用し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所が分かりやすいように表示したり、バリアフリーで安全に移動が出来、自立へ向けた生活ができるよう努めている。		